

すまじる長中



富所先生から矢尻先生へ病院長のバトンが渡されました。

新病院長挨拶

病院長 矢尻 洋一



この令和4年4月より名誉院長となられた富所前院長の後任として病院長となりました矢尻洋一です。皆様よろしくお願いいたします。

中越地区、長岡市の中核病院の一つである当院の院長となり、大変な重責を感じるとともに、少しでもその職責を果たせるように自身を奮い立たせる毎日です。

戦前の昭和初期、当時は現在と違い、誰もが必要な医療を受けることができる時代ではありませんでした。昭和10年（1935年）大勢の農家の皆さんが苦難の

末に設立した組合病院が当院の前身です。今年で開院87年となります。また平成17年に福島江治いの福住から、現在の川崎町に新築移転し約20年近くになります。地域の医療、福祉、健康に貢献できるように、病院の理念である「良質で心温まる医療を提供する」を全職員が初心にかえり、実践してまいります。当院は地域の中核病院として、救急患者の受け入れはもちろん、より高度な精密検査、重い病気の治療、がん治療、手術など入院治療が必要な紹介患者さんを中心に診療をすることが求められております。その役割を果たすべく、当院は昨年4月に新潟県の認可を受け、地域医療支援病院となりました。皆様には可能であれば、地域の開業医、診療所、病院の先生方からの御紹介のもと、受診していただければと思います。ご面倒おかけしますが、ご理解、御協力をお願いいたします。「地域の皆様から信頼され選ばれる病院」となれるように、微力ながら院長が先頭に立ち職員一同で取り組んでまいります。今後とも長岡中央綜合病院をよろしくお願いいたします。

病院長退任のご挨拶

「お世話になりました」

名誉院長 富所 隆



昭和55年4月、まだ日陰に雪の残る長岡にやってきました。2年前に金沢大学を卒業、県立がんセンターでの初期研修を終えたばかりの駆け出しの消化器内科医として。実力も無い、半人前以下の身でしたが、もう毎日仕事が楽しくて、ほかの医師の当直も譲ってもらい、病院が生活の場になってしまいました。先輩の医師や、先輩の看護師からたくさんの知識や技術の指導を受け、少しずつ独り立ちする訓練を受けました。もちろんアフターファイブの懇親会でも、お酒の飲み方と社会で生きるためのコミュニケーションスキルなど、たくさん学ぶことができました。

病院での仕事だけでは飽き足らず、長岡市から胃がんを撲滅すると豪語し、多くの方の協力を得ながら、毎夜山古志村へ講演に訪れ、村で内視鏡による胃がん検診を始めました。前夜、村へ内視鏡を運び会場の設営し、そのまま宿泊。翌朝、農家の皆さんが畑へ出る前に内視鏡検査を行った事など、よき思い出です。皆が手弁当でやっていたのですから、今では考えられないような行為でした。

仕事をする事、患者さんを診ることが至上の喜びであり、生きがいでした。中でも、在宅医療は楽しみの一つで、現在でも頼まれると喜んで往診に出かけます。緩和医療も赴任当時から興味のある分野でしたの

で、病院内で勉強会を立ち上げ、市内の病院の医師や看護師と中越緩和ケア研究会などを開催し、著名な講師の方々の話を聞くのも楽しみでした。

平成11年に副院長を、平成29年に病院長を拝命し、そうした機会がどんどん少なくなってきました。ここまで育ててくれた病院に、地域の患者さんに何とか恩返しをしたいという思いで、病院長になったとき職員に示した決意は『すべての職員が仕事にやりがいと誇りを感じられる職場づくり』でした。それを実現するためにやらなければならないことを三つ決めました。一つ目は安定した経営、二つ目が医療安全、三つ目が働き方改革を含めた職場改革でした。

残念ながら、そのすべてが叶わないまま、今回のコロナ禍が始まり、その対応に追われる日々になってしまい、任期を終えることになりました。今病院では、どこも同じでしょうが、コロナの患者さんの入院のための病床を確保し、その対応に当たってもらっています。感染予防に格段の注意を払い、過度なほどの自粛生活を強いられても、頑張ってくれているすべての職員に、そして、これまで応援して下さった地域の皆様へ、最後に心から感謝の言葉を申し上げます。

本当にお世話になりました。

正しく恐れる：B型肝炎ウイルス非活動性キャリアについて

【はじめに】

わが国のB型肝炎ウイルス (HBV) キャリア (ウイルスを体内に保有している方で、血液検査でHBs抗原陽性) の患者数は、110~140万人と推定されています。HBVキャリアは、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌へ進展することなく終生を過ごす方から、これらに進展する方まで多彩な病態を示します。この病態の違いは、HBVの活動性とそれに対する自身の免疫応答で決まります。今回は、HBV非活動性キャリアについて説明します。

【どのように診断するのか？】

血液検査を行います。肝機能検査値であるALT値が正常、HBe抗原陰性、ウイルス量が少ない方が非活動性キャリアに該当します。もちろんキャリアですから、HBs抗原陽性です。

【どのような病態なのか？】

図は、乳幼児期にHBV感染をした場合の自然経過です。乳幼児期は、免疫が未熟なためにウイルスの排除ができず、無症候性キャリアとなります。成長とともに免

疫が発達してくると、ウイルスを排除しようと感染した肝細胞に対する攻撃をします (肝炎)。80~90%の方の肝炎は一過性で、ウイルスはHBe抗原を産生しないウイルスに変異し、ウイルス量減少とともに肝炎は鎮静化し、非活動性キャリアとなります。

【定期受診の必要性は？】

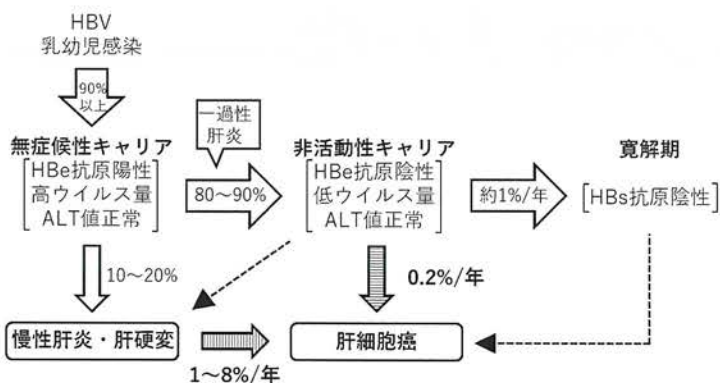
非活動性キャリアは、肝線維化のほとんどない方から進行した方までおります。肝線維化が進行している方は、胃カメラで胃・食道静脈瘤の有無を確認します。破裂の危険がある静脈瘤を認めた方は治療をします。一度、非活動性キャリアと診断された後に肝炎の再燃を認める方がおり、慢性肝炎・肝硬変・肝細胞癌へ進行しやすいと報告されています。また、非活動性キャリアから肝細胞癌の発生を認めることが報告されています。年率発癌率は0.2%と低率ですが、その母集団の多さから全く無視できるものではなく、現在でも発癌を契機に紹介受診される非活動性キャリアの方がいます。6~12ヶ月毎の受診で、血液検査・画像検査等を行うことが必要です。

【さいごに】

多くの方は健診等で、ALT値やHBs抗原を測定していると思います。HBs抗原陽性の方は、肝臓専門医のいる医療機関を受診することをおすすめします。

参考資料：日本肝臓学会肝炎診療ガイドライン作成委員会 (編)。B型肝炎治療ガイドライン (第3.4版) 2021年5月。

B型肝炎ウイルス (HBV) 持続感染者の自然経過



日本肝臓学会肝炎診療ガイドライン作成委員会 (編)。B型肝炎治療ガイドライン (第3.4版) 2021年5月, p2を改変

記事担当

副院長・消化器内科部長 高村 昌昭





～体内時計を整えよう～

新年度が始まりました。入学、入社、異動など春は生活スタイルの変化が多く、体調を崩しやすい時期です。私たちの身体には体内時計といわれる生体リズムを調整するシステムが備わっており、意識しなくても日中は活動状態、夜間は休息状態に切り替わります。体内時計の周期は1日の24時間よりも長いと言われており、毎日24時間に戻す必要があると言われていています。体内時計が狂うと夜寝られない、朝起きられない、肥満や生活習慣病のリスクが高くなると認められています。体内時計を整えるには朝日を浴びることがよく知られていますが、朝食を食べることも重要だと明らかになっています。忙しくて時間がない、朝はギリギリまで寝ていたいなど、しっかりと朝食を食べる事が難しいこともあると思います。そんな時のために、手軽に食べられるおにぎりやヨーグルト、バナナなどを用意しておくとう便利です。朝食を食べて体内時計を整えて、新年度を元気に過ごしましょう。

記事担当：栄養科 管理栄養士 大竹 祐子

病院からのお知らせ

✓ 病院の理念

地域の中核病院として
皆様の健康を守る為、
良質で心温まる医療を提供し、
予防・保健・福祉活動を
積極的に推進いたします

✓ 診療報酬改定

令和4年4月1日より診療報酬が改定されました。
今までと同じ診察内容であっても負担金が変わる場合がございます。
何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

✓ 脳神経外科外来受付時間変更のお知らせ

受付終了時間変更のお知らせ

当院の脳神経外科外来は、**令和4年4月から受付終了時間を10時30分に変更させていただきます。**
受付終了時間を早めることで、手術開始時間に影響させないためとなります。ご理解、ご協力のほど、
よろしくお願いたします。

	現 行	令和4年4月～
受付時間	8時00分 ～ 11時00分	8時00分 ～ 10時30分

ご不明な点などございましたら、脳神経外科外来までお問合せください。